



# 3月 園だより

名島保育園 園長 林田睦子

2024. 3. 1

Aさんは、卒園まであと1ヶ月となりました。子ども達の自分達で考えて行動する姿に卒園後、大きく羽ばたいていくことが目に見える様で、とても楽しみです☆

来年度もお子様の心と身体が、健やかに成長出来るように職員一同、精一杯お手伝いさせていただきます。よろしくお願い致します。

## 3月の行事

- 1日[金] ひなまつり  
お茶会
- 2日[土] 子育て支援会  
クッキング教室
- 7日[木] お別れ散歩  
(ABさんのみ)

**\* 2階クラス全員お弁当**

20日[水] 春分の日(祝日)

23日[土] 岡部賢二先生  
講演会

29日[金] 卒園の会  
(証書渡し)

\* 予定は変更になることがあります。ご了承ください。

## 3月の一口メモ

【ひなまつり】——3月3日。

「弥生の節句」ともいい、平安時代の書物にも「ひいなあそび」の記述がある。川で心身のけがれを清める昔からの風習を人形に身代わりさせるようになり、やがて飾り雛になった。今のような形式は江戸時代初期から。

【<sup>けいちつ</sup>啓蟄】——3月6日頃。

啓は開く、蟄は土の中の虫を意味し、冬ごもりをしていた虫が地上に出る日とされる。この頃になると日差しもやわらぎ、春の訪れを感じるようになる。

【人類初の宇宙遊泳】——3月18日。

1965年のこの日、旧ソ連のレオノフ中佐が宇宙船の外へ出て、命綱一本を頼りに10分間の遊泳をした。

【春分の日】——太陽が赤道の真上を通り、昼と夜の長さが同じになる。「彼岸の中日」とも呼び、この日はさむ1週間が春の彼岸。

# 《 お知らせ・お願い 》

## 卒園の会（証書渡し）について

3月29日（金） 遊戯室 14：15～（年長児対象）20分程度

Aさん(年長児)の保育は、3月30日までです。

## お別れ散歩について（2Fクラス対象）

3月7日(木)に Aさん、Bさんでお別れ散歩へ行きます。お弁当を持って来て下さい。

場所は名島城址公園です。天候が悪い場合は、保育園でお弁当を食べます。

Cさん、D(2歳児)さんも保育園でお弁当を食べます。忘れずに準備をお願い致します。

\* 2階クラス（うみ・にじ・そら）全員お弁当

1階クラスのお子さんは通常通り給食があります。

## 4月からの職員体勢

保育園玄関に掲示しております

\*子ども達の移行に合わせて職員もクラス変更があります。

## 今年度で退職する職員

保育園玄関に掲示しております

## 岡部賢二先生 講演会

3月23日（土）

名島保育園 遊戯室 10：00～12：00

テーマは感染症についてと、それに加えて保護者の方々からのご要望があればその皆様のご要望についてお話し頂きます。

## 結婚とは血を繋ぐこと

結婚は血を繋ぐことです。大切な命の重みを忘れないこと。自分だけの幸せなどありえない。

命は先祖代々伝えられたもので、自分1人で大きくなったのではない。それはまず、見えないご先祖様に挨拶をする。墓前で礼を尽くし祈る。このような事は急にできることではないし、日々の生活の中に積み上げられた心があつてのこと。この我々のご先祖様が歩いた道（お天道さま）を今は教えない。学校の勉強が大事で家事手伝いはしない。女性が理屈を知っても愛を忘れたら、次の時代は育たない。両親を見ない、家事はしない、まして日本の歴史も知らない。結婚は物や財産を繋ぐのではない。血を継ぎ、命を継ぐ。日本人はこの命の尊さにご先祖様が代々伝えてきてくれたことを忘れてはいけないと思うのです。

毎日を感謝し、自然の色と自然の心を大切に生き、後は天まかせで良い。大切な事は自分の事ばかりでなく、相手を思いやる、相手を大切に作る心が、1つの糸となって繋がっていくという事です。先の事は分からない。今を大切に生きる時、願いのようにならなくても必ず良き縁が回ってきて助けられます。頭では見えるものだけの世界で見えない命や心は消えてしまう。先祖など死んだら終わり、後は何もないという人も多くなりました。「生命の誕生」は、はっきりと血と血液は違う。血液は土に還るが血は遺伝子となって代々受け継がれる。

『あなたと健康』東城百合子著より

3月18日から24日の7日間は、お彼岸です。ご先祖様への感謝の気持ちを持ち、お彼岸には家族みんなでお墓参りに行って大切に守っていききたいものですね(^^)



「ぼくのご先祖さまって、1000人くらい？」  
「もっともっと、いるさあ〜ね」

『いのちのまつり』より (作・草場一壽)  
サンマーク出版

## ●子どもが変わるのは、親が変わるとき

私たちの園の子どもたちを見ていて、「この子は入園してから変わったな。成長したな」と感じる場合があります。「この子はなぜこんなに変わったのだろう」と見ていると、実は親が変わっていた、ということが多いものです。

子どもの行動に困っていた親が、「この子はこれをやりたいんだ」と子どもの見方を変えていたり、園での教師のやり方をヒントにして、子どもへの対応をかえていたり……。そんなふうに親が変わると、その変化を映すように子どもが変わっていきます。親子関係の歯車が、良い方向に回りはじめるのです。

子どもが成長するとき、その背後には親の成長があります。親になるということは、人間として成長するチャンスをもらうことなのだと思います。

「良き援助者」であろうと努めるのはエネルギーのいることですが、その努力は子どものためだけでなく、親自身の人生を実りあるものにしてくれます。

『自分で考えて生きる力が育つ12歳までのモンテッソーリ子育て』

野村 緑 著 参照

名島保育園では、保育参加や講演会で、マクロビオティックやモンテッソーリ教育のヒントをお伝えしています。卒園児の保護者の方々も大歓迎です。一度立ち止まって、子育てを考える機会として頂けると嬉しいです。

